

青少年体験活動ボランティア養成研修

令和2年9月5日(土)~6日(日)

【目的】

青少年教育の体験活動を支援するボランティアに求められる知識や技能を習得し、当自然の家におけるボランティア活動の充実を図る。

【参加者】

29名(男子14名, 女子15名)

【プログラムの内容】

1日目

- 10:00 開講式, オリエンテーション
- 10:20 アイスブレイク
- 11:00 講義「ボランティア活動の意義」
- 13:30 講義「青少年教育施設の現状と課題」
- 14:30 講義・演習「安全管理」
- 19:15 講話「青少年教育施設におけるボランティア活動」

2日目

- 9:00 演習「ボランティア活動の技術(野外炊飯)」
- 13:45 講義「青少年教育について」
- 15:20 講義・演習「これからのボランティア活動」

講義「ボランティア活動の意義」

講師：山口市社会福祉協議会 大塚秀美氏



ボランティアにはどんな活動があるのか、活動する時に気をつけること等、参加者同士で意見を交換しながらボランティア活動について考えた。

講義「青少年教育施設の現状と課題」

講師：国立山口徳地青少年自然の家所長 森山都留男



青少年教育施設が様々な機会と学びを生み出す場所として、様々な活動を展開していることについて学んだ。子どもたちがあこがれるようなボランティアになってほしいことを教わった。

講義・演習「安全管理」

講師：国立山口徳地青少年自然の家 黒田雅秀



目の前の対象者が安全に活動するための準備や応急手当ての方法について学んだ。危険を想像し話し合うグループワークやAEDの使い方、ポイズンリムーバーの使い方などの演習に対し、真剣に取り組む姿が見られた。

講話「青少年教育施設におけるボランティア活動」

講師：先輩ボランティア(子どもの木サークル)



先輩ボランティアが今まで参加した教育事業を紹介した。その中で自分が感じたことややりがいについて話し、ボランティアをやってみてほしいというお話をしていただいた。

演習「ボランティア活動の技術(野外炊飯)」

講師：国立山口徳地青少年自然の家 日下部辰徳



本所の研修支援で多くの団体が行う野外炊飯を体験した。薪割りからカレー作りを行い、野外活動の技術だけでなく、活動を通して得られる効果や予想されるリスクについて意見交換を行った。

講義「青少年教育について」

講師：国立山口徳地青少年自然の家次長 市川正宏



子ども達の発達に応じた必要な体験活動があることを学んだ。また、体験の多さと自己肯定感の高さには関係があることを知った。そして、子ども達の成長を促す関わり方が大事であると教わった。

【参加者の声】

- ・「ボランティアをするには、知識や技術を身に付けるだけでなく、必要な声かけやタイミングがあるということがわかった」
- ・「ボランティアをすることの充実感や楽しさ、必要性を知ることができた」

【成果】

アンケートの結果は、参加した全員から満足度4(最上位評価)を頂いた。また、法人ボランティアへの登録を参加者全員がしてくれた。今回の研修で学んだことや感じたこと、これからチャレンジしていきたいことの自由記述欄には、ボランティアで参加することに対して前向きな感想が多く見られた。

【課題】

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として大学のサークル活動に制限があったため、1つの大学しか参加できなかった。来年度は、多くの大学や高校生にも参加していただけるように日程調整が必要である。